

この期の子どもの姿と読み取り

- ・4,5 月は通園している子どもが少なく(2023 年度は 5 名スタート)、登園時にスムーズに保護者と別れて遊び始めるなど、保護者と離れて園で過ごすことに比較的早く慣れてくる。保育者がそばにいて自分と同じことをして遊んでいることで安心して遊ぶ子ども、保育者が近くにいることで自分の興味のある遊びをしようとする子ども、保育者がどこにいるかわかっているならば、離れた場でも自分の興味のあることやしたいことをする子ども、保育者と離れていても自分の興味のままだに目についた遊びをする子どもなど、担任の保育者との関係や遊びへの取り組み方はさまざまである。このような個人差はあるが、どの子どもも保育者や保育室に対して「自分の先生」や「自分の部屋」という認識があり、それらを拠点としながら園生活を送る。(社会生活との関わり)
- ・慣らし保育開始当初は保育者に誘われて一緒に遊んだり、近くにいる他児の遊ぶ様子をじっと見たりしている子どもも多いが、だんだんと、中庭や保育室内で目についた遊びをやってみたり、他児や保育者がしていることに興味をもって自分もしてみようとしたりする。園で過ごすことに少しずつ慣れてくると、身近な遊びを自らやってみようようになってくる。その中で気に入ったものがあると何度も楽しんだり、森や池、運動場など遊んだ場に行ったり、巧技台や虫取り網など遊びに使った物を見たりしたときに、前にした同じような遊びをしようとする姿も見られるようになってくる。楽しかったことを思い出して、日をまたいで何度もすることが楽しくなってきたようだ。(思考力の芽生え、健康な心と体)
- ・保育者と遊ぶことが楽しいと感じ、保育者がしている遊びを一緒にしようとしたり、使っている物を自分も使おうとしたりすることが多い。保育者と遊ぶ場に子どもたちが寄り集まることで、短い時間だが保育者がその場にいることで、数人で同じような遊びを楽しむ姿も見られるようになってくる。(協同性)
- ・生活面では特に個人差が非常に大きく、用便や着替え、食事などは保護者以外の大人とする機会があまりないことから、園という場で、保育者で行うことに慣れない子どももいる。1つ1つすることを保育者から知らされることで、何をすることがかわかって安心して援助される。また、持ち物の始末や靴の着脱など簡単な身の回りのことは、毎日保育者と一緒に繰り返すなかで、持ち物の置き場所やすることがわかるようになり、保育者に誘われたり、近くにいる他児がする姿を見たりして、自分もしようとする姿が少しずつ見られるようになってくる。(自立心)

ねらい

教育○興味のある玩具や遊びを、保育者と一緒にやってみようとする。(創造する)

○担任保育者に信頼をよせ、安心して過ごす。(人とともに)

○園での過ごし方を知って園生活に少しずつ慣れながら、保育者と一緒に簡単な身の回りのことや遊びをやってみようとする。(地球の中で)

養護○一人一人の健康状態や心身の状態を把握し、快適に生活できるようにする。

○一人一人の不安や欲求を受け止めながら、安心して過ごせるようにする。

内容

- ・保育者と一緒に過ごす中で、自分の気持ちを受け止められたり、楽しさを共有したりして、少しずつ親しみを持つ。(人間関係)
- ・保育者と一緒に、手洗いや靴の履き替えなど簡単な身の回りのことをする。(健康)
- ・保育者と一緒に園生活を送る中で、保護者と離れて過ごすことや、自分の保育室や担任の保育者のこと、荷物の置き場、手洗いや排泄などの身の回りのことなど、少しずつ園での過ごし方について知っていき、毎日同じように繰り返していくことで徐々に慣れていく。(健康)
- ・同じ場にいる保育者や他児の存在を感じながら過ごしたり、簡単なやりとりをするなど関わりを持ったりする。(人間関係・言葉)
- ・保育者に誘われて、ままごと、車や電車の玩具、ぬいぐるみ、ブロック、絵本、お絵かきなど身近な玩具で遊ぶ。(環境・言葉・人間関係)
- ・目についた身近な遊びをやってみたり、他児や保育者がしていることを真似てやってみたりする。(環境・人間関係・表現)
- ・園内の身近な生き物や植物などの自然物を見たり触れたりする。(環境・表現)

育ちが期待される資質能力

- ・目についた、興味をもった物やことに、感情のおもむくままに関わろうとする(進んで参加する態度)
- ・保護者以外の人に親しみや信頼感を感じる(コミュニケーションを行う力)
- ・家庭以外の場所で保護者と離れて過ごすことに少しずつ慣れる(つながりを尊重する態度)

この期の子どもの姿と読み取り

- ・保護者と離れることに不安なく喜んで登園してくるようになり、保育者に自分のしたいことを伝えたり、前日と同じような遊びをしたりして、気に入っている遊びや以前にして楽しかったことなど、そのときに自分がしたいことを見つけて遊ぶ。何回も同じことをしたり、自分なりにいろんな道具を使ってみたりしている。(思考力の芽生え、健康な心と体)
- ・別の遊びをしていても保育者がしていることを見ていたり、保育者がしている遊びと一緒にしようしたり、自分のしたい遊びに保育者を積極的に誘い込もうとする子どもが増える。保育者と一緒に遊ぶことを楽しいと感じたり、親しみをもったりするようになる。(社会生活との関わり、豊かな感性と表現)
- ・長い時間ではないが、保育者が近くにいなくても自分の興味のあるところに行ったり、2~3人で連れ立って保育者や保育室から離れたところで遊んだりする姿も見られるようになり、その後戻るよう促さずとも、自ら保育者のいる場(保育室やその周辺)に戻って来る。また、子ども同士互いの気に入っている遊びに興味をもって、遊ぶ様子をじっと見たり、自分も同じことをやってみようとしたりする。園で過ごすことに慣れ、保育室や保育者が安心基地になるとともに、毎日一緒に過ごしている友達に対しても興味や親しみをもつようになってくる。(社会生活との関わり、協同性)
- ・保育者に「お名前呼ぶやつしよう」と誘ったり、「今日はこれ読んで」と好きな絵本を持ってきたりして、みんなと一緒に集まる場面を楽しみにしている子どもが多い。他児の名前を覚えていて大きな声で呼んだり、いつもと違った返事の仕方をする子がいると、他児が真似ることも多い。少しずつクラスのみなどと過ごす楽しさを感じ始めていく。(協同性)
- ・1つずつ保育者と一緒に手洗いや持ち物の始末などの身の回りのことをする中で、徐々に園生活の仕方がわかってきたり、同じクラスで過ごす子どもの姿からも興味をもったりして、自分でもやってみようとする姿も見られるようになってくる。特に暑くなり水遊びをするようになると、着替えをする機会も増え、保育者の手を借りながら着脱をすることを繰り返す中で、個人差は大きいが、身の回りのことを自分でしようとする姿も見られるようになってくる。(健康な心と体、自立心)

ねらい

教育○気に入った遊びを繰り返したり、いろいろなものを使って遊んだりすることを楽しむ。(創造する)

○保育者との関係を基盤に、近くの友達に興味や親しみをもつ。(人とともに)

○保育者の手を借りながら簡単な身の回りのことを自分でもしようとする。(地球の中で)

養護○一人一人の健康状態に合わせて、水分補給や休息がとれるようにする。

○一人一人の欲求や要求を受け止めながら、安心して思いを出しながら過ごせるようにする。

内容

- ・水や砂、泥などに触れながら、自分なりに繰り返したり試したりして遊ぶ。(環境、表現)
- ・気に入った玩具や遊びを自分からやってみたり、何度も楽しんだりする。(環境)
- ・身近な生き物や植物などの自然物を見たり、触れたり、遊びに取り入れたりする。(環境)
- ・担任の保育者との関係を基盤に、毎日ともに過ごす他児との関わりを持ち、少しずつ興味や親しみを持つ。(人間関係)
- ・保育者に誘われ、手洗いや靴の履き替えなど簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。(健康)
- ・保育者と一緒に着替えや用便、荷物の始末をしながら、自分でできる部分をしてみようとする。(健康、人間関係)
- ・身近にある玩具や遊びをしたり、他児や保育者がしていることを自分も真似て一緒にしたりする。(環境、人間関係)

育ちが期待される資質能力

- ・保育者との関係を基盤に、周囲の友達と関わる(コミュニケーションを行う力)
- ・おもしろいと思ったことを繰り返す(進んで参加する態度)(批判的に考える力)
- ・簡単な身の回りのことを自分でもやってみる(進んで参加する態度)

2024年度 2 歳児・満3歳児 Ⅲ期(9~10月) 通園6~7ヶ月

この期の子どもの姿と読み取り

- ・1学期から通う子どもの大半は、1学期に楽しんだ遊びをしたり、簡単な身の回りのことも保育者に声をかけられながら一緒にしたりする中で、長期休み明けも落ち着いて過ごす。(健康な心と体)
- ・自分の気に入っている遊びや、目についてやってみたことの中で、“道具を使うのが楽しい”“砂と水を混ぜるのが楽しい”“描いたりシールを貼ったりするのが楽しい”など、自分なりにおもしろいと感じたことを繰り返し楽しむ。また、繰り返ししているうちに、違う道具を使ったり、やり方を変えてみたりと、自分なりに少し変化を加えながら、よりおもしろくしようとする姿も見られるようになってくる。(思考力の芽生え、健康な心と体)
- ・砂と水でアイスクリームを作る友達がいれば、自分はケーキを作ったりするなど、近くの友達がしていることに刺激を受けながらも自分なりに少し違うことをしようとする姿も見られる。(思考力の芽生え、健康な心と体、豊かな感性と表現、協同性)
- ・長い時間ではないが、誰かが遊び出すと他児もやってきて同じ遊びをしようしたり、同じようなものを持って遊んだりすることが増えてくる。子どもだけで数人寄り集まって乗り物に乗ったり、ハウスなど狭い空間に身を寄せて遊んだりするなど、誰か友達がいてその遊びの面白さが増えたり、同じ場で友達と過ごすことが心地よくなったりしてくるようだ。(社会生活との関わり、協同性、健康な心と体)
- ・9 月には教育実習生がクラスにはいり、実習生にも思いを受け止められたり一緒に遊んだりして過ごす中で、次第に担任でなくとも特定の実習生、担任以外の保育者がいる場で安心して過ごし、じっくりと遊ぶようになる。また、参加する園の行事(コンサート、運動会、交通安全教室など)が増えたりすることで、他の学年がしていることを目にする機会が増える。少しずつ担任以外の大人との関わりが増えたり、クラス以外のところにも目が向き始め自分もやってみようとする姿も見られる。特に運動会では、他の学年がしている競技や遊びを目にする機会が増え、同じようなものを身につけようしたり、真似て動いたりする姿が多く見られるようになる。(社会生活との関わり、豊かな感性と表現)

ねらい

教育○自分なりにおもしろさを見つけて繰り返し楽しんだり、よりおもしろくしようとしたりする。(創造する)

○保育者との関係を基盤に、クラスの友達、園内の身近な大人との関わりを喜ぶ。(人とともに)

○クラスの保育者や友達、園内の身近な職員や園児のしていることに興味をもち、自分もやってみようとする。(地球の中で)

養護○一人一人の心身の状態を把握しながら、室内の温度調節をしたり、休息をとったりして、快適に過ごせるようにする。

○一人一人の要求や欲求を受け止めながら、安心して思いを出して過ごせるようにする。

内容

- ・砂場での遊びや、保育室での人形やフィギュア、電車、ブロックなど玩具を使った遊びなど、自分の気に入っている道具や遊具を使って遊ぶ。(環境、表現)
- ・担任の保育者だけでなく、毎日顔を合わせる園内の保育者や職員、実習生にも自分なりに関わったり、他の学年の園児のしていることに興味をもったりする。(人間関係、表現)
- ・ぐるぐる、点々や線を描いて意味づけしたり、ペンやクレヨンで意味のあるものを描いたりする。色画用紙や、シール、セロテープ、カラービニールテープなどの素材も使うことを楽しむ。(表現)
- ・走る、跳ぶ、よじ登る、くぐる、ぶらさがるなど、いろいろな動きをしながら遊ぶ。(健康)
- ・歌を歌う、かけっこをするなど、簡単な活動をクラスの保育者や友達と一緒に楽しむ。(人間関係、健康、表現、言葉)
- ・自分の身の回りのことを、保育者に誘われたり、友達の姿を見たりして、やってみようとする。(健康、人間関係)

育ちが期待される資質能力

- ・おもしろいと感じたことを繰り返す(進んで参加する態度)(批判的に考える力)
- ・自分なりに遊びに変化を加えてより面白くしようとする(進んで参加する態度)(批判的に考える力)
- ・繰り返し遊びながら、クラスの活動や園内の行事ですることがわかる(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・保育者との関係を基盤に、クラスの友達と遊んだり、園内の人に興味をもったり関わったりする(つながりを尊重する態度)
- ・クラスの活動や園内の行事に喜んで参加する(進んで参加する態度)

2024年度 2歳児・満3歳児 IV期(10~12月) 通園7~9ヶ月

この期の子どもの姿と読み取り

- ・お絵かきやシール貼りだけでなく、画用紙やスズランテープ、セロテープなどの素材を使って作ることも楽しむようになる。いろいろな色を使ったり、描いたり貼ったりすること自体が楽しく、いくつも作ることを楽しむ。また、作りながらできた形を見て何かに見立てたり、はじめから「〇〇を作る」など自分なりのイメージをもって作ったりすることも多くなる。ブロックや砂場でも同じように、自分なりに見立てたり、イメージをもって作ったりする。(思考力の芽生え、豊かな感性と表現)
- ・運動会にむけてよく使うようになった「よーいどん!」「がんばれー!」「えいえい、おー!」などの言葉を合言葉のように、生活のいろいろな場面で友達と声を合わせて言う姿がある。また、「ピクニック」や「おでかけ」、「森で火事が起きた」「おばけがきた」など、誰かが自分なりに思いついたおもしろい“つもり”で遊びだすと、興味をもった他児も一緒にしようとしたり、同じ場に集まって来たりすることが多い。印象的でイメージをもちやすい言葉や、合言葉で友達と繋がっているようだ。また、砂場や保育室でのままごと、電車や人形を使った遊び、ブロックなど互いに相手のしていることがわかりやすい遊びは、子どもたちだけで遊ぶことも楽しくなっていく。保育者がいることで、つもりやイメージがわかりやすくなり、より多くの子どもたちが集まってきて、同じようなことを楽しむようになる。(思考力の芽生え、協同性、社会生活との関わり、豊かな感性と表現)
- ・かくれんぼや、おにごっこなどでは、それぞれが一般的なルールをわかって遊んでいる訳ではないが、それらしく数えることや、誰かとくっついて隠れること、「もういいかい」「まあだだよ」「もういいよ」のやりとり、「みーつけた!」からみんなで走り回ることを楽しんでいる。同様に、ままごとで「ご飯です」「お手紙です」「どうぞ」「ありがとう」と受け渡しややりとりを楽しむ姿もある。保育者や友達と一緒に同じようなことをしたり、やりとりをしたりして遊ぶ楽しさを感じているようだ。(協同性、社会生活との関わり、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)
- ・自分で身の回りのことをすることがだんだんと習慣になってきて、登園後の準備や給食前後の準備と片付けに気が進みにくい子どもも、保育者に誘われると自分でもしようとするのが少しずつ増えてくる。また、もともと自分の身の回りのことに意欲的な子どもは、毎日している身の回りのことは自分で気づいてするようになってくる。(健康な心と体、自立心)

ねらい

教育○自分なりのつもりや簡単なイメージをもって遊ぶことを楽しむ。(創造する)

○保育者やクラスの友達と同じ場で遊んだり、同じようなことをして遊んだりすることを楽しむ。(人とともに)

○保育者や身近な友達が思っているつもりやイメージが自分なりにわかり、自分もやってみようとする。(地球の中で)

養護○一人一人の健康状態を把握したり、換気や清潔を保つなど環境を整えたりして、感染症予防に努めながら、健康に過ごせるようにする。

○一人一人の思いを丁寧に受け止め、思いを存分に出しながら安定感をもって過ごせるようにする。

内容

- ・遊具を使った遊びや、ごっこ遊び、かくれんぼや鬼ごっこなど、したい遊びを見つけて遊ぶ。(環境、表現、言葉)
- ・ごっこ遊び(ままごと、郵便屋や消防隊ごっこ、ピクニック、電車、人形など)や、つくる遊び(制作やブロック、砂場など)で、自分なりのつもりやイメージをもったり、保育者や友達と簡単なやりとりをしたりしながら遊ぶ。(表現、言葉)
- ・いろいろな素材を使って描いたり作ったりすることを楽しんだり、描いたり作ったりしたものを見立てたり意味づけしたりする。(環境、表現)
- ・落ち葉や木の実など秋の自然物を集めたり、遊びに取り入れたりする。(環境、表現)
- ・クラスの友達や保育者がしていることと同じようなことを楽しむ。(人間関係、表現)
- ・自分でいろいろな遊具や運動用具を使いながら、走る、跳ぶ、よじ登る、くぐる、ぶらさがる、漕ぐなどさまざまな動きを楽しむ。(健康)
- ・クラスの保育者や友達と一緒に声を合わせて歌ったり、声を出したりすることを楽しむ。(人間関係、表現)

育ちが期待される資質能力

- ・遊びの中で、自分なりのつもりやイメージをもつ(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・クラスの保育者や友達のしていることや、そのつもりやイメージがわかる(コミュニケーションを行う力)
- ・保育者だけでなく、クラスの友達にも親しみをもって関わる(繋がりを尊重する態度)

この期の子どもの姿と読み取り

- ・制作遊びや、ブロック、砂場などでは、素材からイメージが湧いたり、近くで友達がしていることから刺激を受けたり、他の学年がしているお話遊びの真似をしたりして、自分なりのイメージや思いをもって遊ぶ。また、自分のイメージに合わせて、布積み木で囲って家やお店にしたり、ままごとや絵本のコーナーをお店に見立てて玩具や絵本を並べたり、積み木やフィギュア、電車などの玩具を並べて街をつくったり、巧技台や板などを並べて遊び場をつくったりして、自分なりに遊びの場をつくらうとする。(思考力の芽生え、豊かな感性と表現、言葉による伝え合い)
- ・その日の欠席者がだれかを気にしたり、登園してくる友達がだれかを窓から見ていたり、友達が来たことを喜んで保育室前で出迎えたりする子どもが増える。クラスの友達として気にかけているようだ。(協同性、豊かな感性と表現)
- ・保育者がいない場でも、2~3人の子どもたちだけでもじっくりと遊ぶようになる。好きな遊びが同じであったり、なんとなく波長が合ったりして、自然と2~3人が寄って遊んだり、いろいろな場面で一緒にいることを喜んだりすることが多く見られるようになる。次の日には、その友達が登園してくるか気にかけてたり、前日に楽しかった遊びに誘い合ったりしている。2~3人の組み合わせは長期間続くわけではなく、入れ替わりもあるが、保育者がいない場でも、そのときに気の合う友達と過ごすことを楽しむようになる。(協同性、健康な心と体)
- ・誰かが走り出すと一緒に走り出したり、誰かがリズムカルに声を出すと真似て声を合わせたりと、誰かが始めたことを近くにいた他児も一緒になって楽しむ。以前は保育者がいることで輪が広がっていたのが、子どもたちだけでその輪が大きくなることが増える。(豊かな感性と表現、協同性)
- ・朝の準備や給食前後の準備・片付け、排泄や手洗いなど自分で気づいてしたり、保育者の声かけを聞いたりして、今することに進んで取り組む。また、片付けも保育者の声かけで行動に移す子どもが増え、自分たちで片付けたことを喜んだり、自慢げにしたりする。毎日している身の回りのことが、できるようになったことを自信や意欲にしながら進んでするようになる。(自立心、健康な心と体)

ねらい

教育○自分なりのイメージや思いをもって遊ぶことを楽しむ。(創造する)

○クラスの友達や保育者と一緒に遊んだり、一緒にすごしたりすることを楽しむ。(人とともに)

○毎日している自分の身の回りのことを進んでしようとする。(地球の中で)

養護○日々の気候や気温の変化や一人一人の健康状態に留意しながら、室内の環境を整えて感染症予防に努め、健康に過ごせるようにする。

○一人一人の思いを丁寧に受け止め、思いを存分に出しながら安定感をもって過ごせるようにする。

内容

- ・自分なりの思いをもって、したい遊びを楽しむ。(環境)
- ・自分なりのつもりやイメージをもって、身近な遊具や用具を使って遊びの場をつくる。(環境、表現)
- ・自分なりのつもりやイメージをもって、ごっこ遊びをしたり、何かになって動いたりして遊ぶ。(表現)
- ・ごっこ遊びやつくる遊びの中で、友達や保育者と簡単なやりとりしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。(人間関係、表現、言葉)
- ・自分なりにクラスの友達がしていることのおもしろさを感じて、自分も同じようなことを楽しむ。(人間関係、表現)
- ・クラスの保育者や友達と一緒に声を合わせて歌ったり、声を出したり、動いたりすることを楽しむ。(人間関係、表現、健康)
- ・自分の身の回りのことができるようになっていることを喜ぶ。(健康)
- ・大きくなったことを喜んだり、進級することを楽しみにしたりする。(人間関係、健康)

育ちが期待される資質能力

- ・遊びの中で、自分なりの思いやイメージをもつ(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・クラスの保育者や友達と過ごすことを楽しむ(コミュニケーションを行う力)
- ・自分ができるようになったこと、大きくなったことを自覚する(進んで参加する態度)(批判的に考える力)